

新しい学校教育目標について

平成27年度より校長をしております 久保 薫 と申します。微力ながら、深草中学校の発展のため頑張りますので、どうかよろしく願いいたします。

さて、本校は平成28年度から学校教育目標を新しくしました。

新しい目標は、

『志を立て、その実現のために努力する人間の育成』

です。

この目標の最初にある「志を立て」というのは、自分の将来を見据え今の自分にとっての人生の目標を立てるということです。そして、その実現のために頑張ろうということです。「生徒の育成」ではなく「人間の育成」という表現にしたのは、中学校を卒業してもずっと続く人生の歩みを通して、自分の立てた人生の目標実現に向け頑張れる人になってほしいという思いからです。

また、生徒会のスローガンとしてこの深草中学校でずっと大事にされてきた「一生懸命がかっこいい」を、

『みんなの力で「一生懸命がかっこいい」学校を』

という表現で学校のスローガンとすることにしました。

何事にも一生懸命に取り組むことは価値のあることだ、という考え方は、この深草中学校に続いている素晴らしい伝統です。実際これまでの卒業生のみなさんが、このことを実現してきました。これからも是非このことを受け継いでいきたいと思ったので、

これを学校のスローガンにもしたわけです。

このスローガンを大切にしながら、新しい学校教育目標の実現に向け、教職員一同気持ちも新たに頑張っています。保護者の皆様、地域の皆様、是非ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

平成28年4月

京都市立深草中学校
校長 久保 薫

追記:次ページ以降に職員会議で新しい学校教育目標を提案した際の資料を掲

載いたします。あわせて、よろしく申し上げます。

平成 28 年 3 月

新年度に向けての検討資料（抄）

学校教育目標の改変について

深草中学校・校長

1 はじめに

(1) 今の子どもは今ない職に就く!?

平成 23(2011)年 8 月、ニューヨーク・タイムズ紙に、米デューク大学の研究者キャシー・デビッドソン氏の研究に関する記事が掲載されました。その記事とは、『米国で 2011 年度入学した小学生の 65%は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう』というものでした。

今から 20 数年前、携帯電話は今のよう一般的ではありませんでした。したがって、ケータイショップもありませんでしたし、スマホやタブレットも存在していませんでした。Facebook や YouTube もありませんでした。学校現場ではワープロが PC に変わりつつあった、という段階だったといえます。

このように私たちが暮らす社会は、“急速に”という表現があてはまる程のスピードで変容しています。特に ICT 関係の技術革新は“十年ひと昔”が“三年ひと昔”にたとえられる現状だそうです。このことを職業の視点で言い表したものが上の記事と言えるでしょう。これを踏まえると、単なる今の知識や技能を習得してもそのこと自身がすぐに古くなって役立たなくなるといえます。

(2) 年齢構成から見えるもの

現在の日本社会の年齢構成比のようすを見てみましょう。

年	全人口 (万人)	生産年齢 人口(万人)	生産年齢 人口割合(%)	高齢者 人口(万人)	高齢化 率(%)
2010	12,806	8,170	63.8	2,945	23.0
2030	11,662	6,773	58.1	3,685	31.6
2060	8,674	4,418	50.9	3,464	39.9

(出典) 平成 25 年度 総務省「人口推計」

15～64 歳の人口を生産年齢人口、65 歳位以上人口の割合を高齢化率と呼びますが、2010 年時点では、日本の人口に対する生産年齢人口割合が 63.8%、高齢化率が 23.0%でしたが、その 20 年後の 2030 年時点では、生産年齢人口割合は 58.1%、高齢化率 31.6%となり、さらに 50 年後の 2060 年時点では、生産年齢人口割合は 50.9%、高齢化率は 39.9%になることがそれぞれ予想さ

れています。このままでは、人口が減るより早いペースで生産年齢人口が減少するというわけです。そこで、日本社会が持続可能な社会として成り立つためには、生産年齢人口の半数を占める女性が今以上に活躍できる社会になることに加えて、一人一人の持てる力(富を生み出す力)をいかに高めていくが鍵になると言えます。

そのことを「ひとりの人として」という視点で考えれば、人間が人間らしく生きていくためには、その能力に応じた仕事に就いて、生活の糧が得られ、自己実現でき、社会に貢献できている、という状況がすべての人において実現できている社会を創り出していくことが大切であるということになります。

(3) 求められる力とは？

上で述べたことを言い換えれば『社会に根つき富を生み出す力を育てることが大切』となるのでしょうか。このことは別に新しいことではありません。今も昔も、義務教育の目的は自立して生きる力をつけ社会の形成者としての資質を育てることだからです。上記の(1)で触れたように「単なる今の知識や技能を習得してもそのこと自身がすぐに古くなり役立たなくなる」ならば、**習得したものをいかに活用するか、が大切である**ことは言うまでもありません。さらに中学を卒業してから、進学あるいは就職して自分が付きたい仕事に出会ったとき、その仕事に関わる技術を身に付けたり資格取得が必要になったりしたとき、それを**あきらめずに目指すことが出来る力を身につける**必要があると言えます。

その力には、各教科・領域での基盤となる知識や技能に加え、次の要素が含まれると思います。すなわち、『コラボレーションする力』と『課題を発見し解決しようとする力』です。そしてそれらをあわせて『学び続ける力』と呼ぶことができると思います。

まず、『コラボレーションする力』。さまざまなことがらが複雑にからみあう今の社会においては、現実にある問題を解決するとき、「ひとりのスーパースターの力で解決する」というよりも「チームとしての力で解決する」場面の方が多いと言えます。チームとして事にあたることを大切に**する姿勢や態度**が必要です。コラボレーションする力とは言い換えればチームとして協働して問題解決に向かう力と言えます。

次に、『課題を発見し解決しようとする力』。現実の社会においては、ある目標を設定してそれを達成しようとするとき、そのことがらに潜んでいる課題を見出して、それを解決することが求められます。まず課題を見つけること。そのために必要なことは目標を達成するために必要と思われることの本質を見抜くことです。そして、解決のために試行錯誤を繰り返して解決に向けての道を進むことです。この行程で最も困難さを感じるのは、先の見えにくい試行錯誤の繰り返しでしょう。ひとつひとつの仮説について検証を重ね真実に近づいていくことこそ、困難ですが**確実な手法**です。このことをやり切る力が求めら

れていると言えます。

基盤となる知識や技能を習得し『コラボレーションする力』と『課題を発見し解決しようとする力』を身に付ければ、『学び続ける力』となって生きて一人一人に働くと思います。

2. 今の学校教育目標から新しい学校教育目標へ

【参考】現 学校教育目標

- 健やかな身体と豊かな感性を育て 確かな学力を身につけさせよう
- 自主・自律的な能力を育てよう
- 共生の心をはぐくみ 人間尊重の精神を培おう

現行の学校教育目標をあげてみました。読んですぐにわかるように、学校教育を進めるにあたり考えられるすべての課題をあげている、すなわち、「知」「徳」「体」や自主性・自律性に関すること、共生や人間尊重といったぐあいで、いわば学校教育がめざすべき、ほとんどすべての面を網羅していると言えます。しかしその反面、言わばどこの学校でも通用するようなものであるとも言え、特色または「重点化」に欠けるという指摘が出来ると思います。

そこで、どのことも大切なのですが、学校教育目標をあるべき方向を指し示すものと解釈すれば、“何のために” “どこに向かうのか” を前に出したものにしてはどうか、 と思い、“何を目指して”、“何のために” の視点を入れた表現にすることを考えました。それは、1. で述べた

基盤となる知識や技能を習得し『コラボレーションする力』と

『課題を発見し解決しようとする力』を身に付け、

『学び続ける力』を育てるというものです。

また、現行の目標は“すべての点を網羅する”ためか3つの文から成っているので、子どもも大人も覚えにくいとも言えます。そこで、端的に1つの文で表現して、目指すべき方向を示せるものとしたいとも思いました。さらに、生徒も教職員も認める“深草中らしさ”と言える、歴代の生徒会本部に受け継がれてきたスローガン「一生懸命がかっこいい」を、学校教育目標のスローガンとして取り入れようと思います。ということで、

新しい学校教育目標を

志を立て、その実現のために努力する人間を育成する

という1つの文で表現したい、 と思います。

そして、生徒会のスローガンを

みんなの力で「一生懸命がかっこいい」学校を

という形で、学校のスローガンにしたい、と考えます。

ここにある「志（こころざし）」とは、将来の夢とか理想と言い換えてもよいかもしれませんが、漠然とした思いよりもう少し具体的なイメージです。「こんなふうになれたらいいな」というより「こうなりたい」というイメージです。その方が“それを実現するためには何をしたらよいか”がわかりやすいから考えたからです。

また、「生徒を育成する」ではなく「人間を育成する」としたのは、生徒とすると中学生の間だけということになります。卒業してもずっと続く“人としての成長”という点を入れたかったからです。ここでイメージしているのはキャリア発達（＝社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程）です。キャリア発達とは“心の成長・変容”ですから生涯にわたって発達し続けるととらえることができます。この「生涯にわたって」と言う部分を表現するために“生徒”ではなく“人間”としてみました。

さらに、『みんなの力で「一生懸命がかっこいい」学校を』というスローガンには、言うまでもなく深草中の伝統があります。何事にも一生懸命に取り組むこと。そのことが素晴らしい価値のあることであり、ずっと大切にされてきたこと。こんな伝統を受け継いでいきたい、という願いの表現です。

学校教育目標を変えることをもって、今までの教育活動を“ごろっと全部変える”わけではありません。これまでの方針を継承しながら、やろうとしていてできていない面をどうすればできるようになるか、が基本になります。場合によっては、これまでの取組について少し視点を変えて見直し、スクラップ&ビルドする。ということも個別には出てくることと思います。ただ、それらに加えて、今の学校を取り巻く状況から新たに取組まなければならないこともあります。というわけで、次に、具体的に言わば“生徒にも先生にも一生懸命になってほしい”こととしていくつかの点を挙げていきたいと思えます。

28年度に向けて、深草中学校の課題とその解決のための取組について

- A. これまでの取組を検証しさらに充実させる
- B. 新たな課題に対応する

の2つに分けて考えます。

3. 「A. これまでの取組を検証しさらに充実させる」点について

(1) 学習指導部に関すること

- 「年間評価計画」冊子の改訂
- 今一度、授業を見直す
- 基礎力を育てる日々の取組（朝読書・終学習）について
- 「学習確認プログラム」の平均正答率について
- 定期テスト問題を教科会で検討すること

(2) 生徒指導部に関すること

(3) 小中連携の部分で

4. 「B. 新たな課題に対応する」点について

(1) 「深草フェスティバル」でより多くの生徒（できれば全員）が発表する機会を多く与えてほしい

(2) 「人権学習」の取り上げるべきテーマや内容等，伝えるべきこと，伝えたいことは何かを再度検討してほしい。

(3) 増えている支援の必要な生徒への対応のために必要なことを取り組む

(4) 上記の(1)～(3)を行うためにも…

新たな課題を解決していくために，これまでの研修会の内容と実施回数・時間を見直し，必要な研修の時間確保を行うことが必要。

5. 最後に

以上，多岐にわたる内容を書いています，

1 番目は，学校教育目標の改変を提起。

それを機会に

2 番目は，今行っている教育活動について見直すべき点の見直しの提起

3 番目に，本校の課題解決に向けた新たな取組を提起

というお話をしました。長い文となりましたが，この内容について，具現化のためのご意見を伺っていきたいと思います。